



## 警告のニューズレター「角笛」

発行日:2015年8月発行(第64号)

発行:警告の角笛出版

価格:フリーペーパー

角笛 HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

### 【目次】

◎巻頭メッセージ:「獣の刻印」 エレミヤ

◎証:「契約を守る」 E3

◎お知らせコーナー:「本の紹介」「日曜礼拝&HPのご案内」

### [巻頭メッセージ]

#### 「獣の刻印」

by エレミヤ

今回は「獣の刻印」として、このことを見ていきましょう。黙示録は終末の日に多くの人々が獣の刻印を付けられることを語ります。以下の通りです。

**[聖書箇所]ヨハネの黙示録 13:16**

**13:16 また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。**

ここで、獣の刻印を付けられる人々が出てきますが、これらの人々は我々の理解では、クリスチャンです。クリスチャンが背教のゆえに最後は獣の刻印を付けられるようになる、という恐るべき未来を聖書は預言しているように思えます。このことを見ていきたいと思うのです。

この黙示録13章を見ていきましょう。

**[聖書箇所]ヨハネの黙示録 13:7**

**13:7 彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。**

彼、すなわち獣の国アメリカは聖徒、すなわちクリスチャンたちと戦い、その戦いに勝利を得ることが許されるようになります。すなわち正義が勝つのではなく、悪が勝つようになるのです。

なぜこのように理不尽なことが終末の日に許されるのでしょうか？その理由は教会の、またクリスチャンの背教のゆえ、不従順のゆえであることを知しましょう。ですので、私たちは終末に関して、自分の希望や理想や建前ではなく、また、教え込まれた教理でもなく、しかし書かれたみことばに従って理解することを求めましょう。

ここでは終末の日に、聖徒たちが最後には獣の国に勝利を得ると書かれているのではなく、しかし獣の国が聖徒たちに戦いを挑んで打ち勝つと書かれています。裏返せば、クリスチャンも教会も獣の国の画策に敗れ、その教理も、教えも、大事な信仰も皆奪われ、崩されていくことが書かれています。悲しいですが、そう書かれているなら、そう理解しなければならぬのです。

このことは残念ですが、しかし歴史を振り返れば妥当です。かつての主の初降臨の日において、旧約の神の民は神のひとり子を殺し、十字架に付け、その冒涜のゆえにエルサレムは敵の軍、ローマ軍と戦い、彼らに倒され、宮は崩壊

# 獣の刻印 エレミヤ

しました。たとえ、彼らユダヤ人が神の民であっても、この戦いの日に、ローマに勝利を得ることはできなかったのです。主の再臨の日においても、同じことが繰り返されると理解するのが正しいでしょう。主の再臨の日、新約の神の民は聖霊なる方を追い出し、ソドムやエジプトとなった教会の中で十字架に付けます。その冒涇のゆえ、新約の神の宮である教会は崩壊し、その教会の土台の教えは崩されます。土台である預言者や使徒、さらに隅のかしら石であるキリストの教えさえ、教会から取り除かれるようになるのです。そうです。獣の国のキリスト教壊滅の作戦にまんまと倒され、教会は崩壊してしまうのです。

そして、このことに関連してあまり書きたくはないのですが、しかしはっきり語らないといけない一つのことがある、と私は思っています。それは何かと言うと、かつて旧約の神の民の裁きとして、神の民の中心地エルサレムが異邦の民、ローマに攻撃されたとき、その時、生き残った神の民は皆無だったことです。一人残さず殺されてしまった、このことです。

同じことは新約の神の民の歴史の終わり、反キリストが教会の土台を崩すとき、繰り返されると思われまふ。何を言っているのか？と言うと、その日、背教の教会にとどまり、なおかつ命を得る人は、恐らく皆無となるでしょう。背教の教会にとどまる人はすべて永遠の命を失うようになる、そう理解できるのです。

それで私たちはその日、主の言われたように「山へ逃げる」こと、すなわち地下教会へ逃れることを考慮すべきなのです。かつての日、ローマによるエルサレム攻撃の日、この背教の都にとどまらず、主のことは通り、「山へ逃げた」クリスチャンは自らの命を救いました。同じように終末の日、背教の教会にとどまらず、この教会から逃れる者は永遠の命を救います。

**[聖書箇所]ヨハネの黙示録 13:11**  
13:11 また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。それには小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。

この「もう一匹の獣」は何か？と言うと、「小羊

のような」との表現で理解できますように、小羊キリストに従うはずのキリスト教会のことです。「二本の角」は、キリスト教会の2大勢力、カトリックとプロテスタントです。その日、全世界の教会は背教に入り、神の前には獣と見なされるようになります。教会は獣の国アメリカの圧倒的な権威と圧迫の下で獣や竜、サタンの意志を行うようになるのです。その中で背教のクリスチャンは獣の刻印を押され、永遠の命を失うようになります。そのことこそが、この黙示録13章の骨子であり、最も大事なメッセージです。

**「竜のようにものを言った。」**

その日、公の教会は背教化し、キリストの代言人というより、竜、サタンの意向を語るようになります。サタンは嘘つきですが、その日、獣化した教会も聖書にはない嘘をつくようになるでしょう。

いわく、性的マイノリティの権利を無視してはいけない、教会は同性愛を受入れるべきである。いわく、他の宗教への配慮をしなければならぬ、自分のところだけに唯一の救いがある、キリストのみに救いがある、などとの排他的な教えは良くない、などと言うのでしょうか。

**[聖書箇所]ヨハネの黙示録 13:12**  
13:12 この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。

**「この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。」**とは、どういう意味か？と言うと、獣となったキリスト教会は、あらゆる獣教理をクリスチャンに受け入れさせるべく、最初の獣、すなわちアメリカの権威を最大限に利用する、という意味合いです。ですので、アメリカによる恫喝、強制、法律の下で、あらゆる獣教理がキリスト教会の中で強制されるようになるでしょう。

**「致命的な傷の直った最初の獣」とは、**アメリカのことです。ですから、ここで語られているのは、人間を崇拜しろ、と書かれているのではなく、国を崇拜することが書かれているのです。

# 獣の刻印 エレミヤ

ここでは、反キリストのことなど書かれていません。よく文脈を読まなければなりません。

**〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 13:13**

**3:13 また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしを行なった。**

天から地に降らされる火とは、ペンテコステの日のことを思い出せば理解できると思います。その日、天からの火、すなわち聖霊がそれぞれの人の上に下りました。同じような意味合いでこの日、天から火が下ります。しかしそれは、聖霊ならぬ、悪霊の火です。しるしと不思議の霊でクリスチャンを惑わすわけなのです。

**〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 13:14**

**13:14 また、あの獣の前で行なうことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。**

その日、獣となった教会において、しるしと不思議が行われます。「あの獣の前で行なうことを許されたしるし」とはどういう意味合いかと言うと、獣の国公認のしるしや不思議のことを言います。勿論その日、獣の国アメリカは聖霊の器など、公認しません。逆に、ベニーヒンを始めとした悪霊の器は公認されるでしょう。

獣の像 (image) とは何かと言うと、これこそ反キリストをあらわす表現なのです。反キリストはご存知のように人間です。そして反キリストとは、サタンが「人となられたキリスト」に対抗して立てる人間なのです。キリストは人であられ、また、目に見えない神の形 (image) です。目に見えない神は、目に見えるキリストという人を通してご自身をあらわされています。同じ意味合いで、反キリストという人間は獣の国を体現、象徴するような人となります。

です。反キリストとは、サタンがクリスチャンを惑わし、キリストへの信仰を失わせ、獣の刻印を受けるべく、特別に「クリスチャン向けに」用意された人物なのです。そのターゲットは未信者ではなく、明確にクリスチャンに向けられ、永遠の命に向けられているのです。

そして、なぜこの日、反キリストという人が

現れるのかと言うと、それはキリストという人を意識したもの、キリストに対抗したものとなるのです。反キリストは獣を操るサタンのあらゆる傲慢、冒涇、高ぶりを体現する人となります。彼はキリストに対抗し、自分に対してキリスト以上の尊敬、信仰、献身を教会のクリスチャンに求めるようになります。それはサタンの願いそのものです。

**「あの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。」**

「像を造る」とのことには、たとえば使われています。言わんとしていること、語られていることは、その日背教の教会、クリスチャンは、反キリストを「自ら」自分の手で推薦し、選び、教会の神として建てる、ということです。旧約聖書で書かれている偶像崇拜とは、旧約の神の民が木や石を削り、「自ら」偶像を作り、設置するものです。同じ意味合いで、反キリスト礼拝の重要な点は、それが形としては「民が自ら選んだ」という形がとられることです。

**〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 13:15**

**13:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。**

獣の像、すなわち反キリストは教会の中で、ものを語り、キリストのように語るようになります。そして、反キリストという個人を礼拝することが教会の中で強要され、拝まない者は皆殺されます。したがって我々は、このような日まで背教の教会にとどまるべきではないのです。公の教会を出て仮庵、すなわち地下教会に入ることが正しい道なのです。



アメリカの同性婚カップル

# 獣の刻印

# エレミヤ

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 13:16

13:16 また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。

ここでは、教会のすべての人に獣の刻印を受けさせたことが書かれています。この刻印はクリスチャンをターゲットとしたものです。また以下の神と神の民との契約を意識し、対抗して用意されたものです。

〔聖書箇所〕申命記11:18

11:18 あなたがたは、私のこのことばを心とたましいに刻みつけ、それをしるしとして手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。

この箇所はモーセが十戒を受け、神のことばを受ける箇所です。そのとき、神はその神のことばを「手に結びつけ、記章として額の上に置く」ことを命じたのです。すなわち、神の民がその神と契約を結ぶとき、手と額が関係してくるので

そして反キリストの刻印が右手か額に付けられる、というとき、明らかにこの神との契約を意識し、対抗したものとなるのです。もっとはっきり言うなら、この獣の刻印はクリスチャンの最も大事なもの、神との間に交わされる永遠の命の契約にターゲットを向けているのです。具体的にはこの獣の刻印を受ける者は皆、神との永遠の命の契約が破棄され、永遠の滅びに定められるようになるのです。以下のように書かれています。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 14:9-11

14:9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、  
14:10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。  
14:11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。

ここに「だれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。」と書かれていますように、獣の刻印を受ける者は永遠に休みを受けず、永遠の滅びに入ります。よくよくこのことを理解しなければなりません。

この日はダニエル書に書かれた一週（7年）の契約の一環であり、ダニエル書に「**彼は一週の間、多くのものと固い契約を結ぶ**」と書かれた期間の具体的な記述です。

その日、背教の神の民はキリストとの契約を破棄し、反キリストと堅い契約を結び、その契約の証として、獣の刻印まで受けるようになるのです。ダニエル書に預言された「**その終わりで戦いが続いて、荒廃が定められている。**」(ダニエル書9章26節)とは、まさにこのことを表現しているのです。恐るべき壊滅、崩壊が、キリスト教会の歴史の最後に預言されていることを正しく正しく理解しなければなりません。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 13:17

13:17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。

売り買いということばには、たとえが使われています。それは「贖い」（買い取るという意味がある）と関係しており、教会における救いや贖いと関係しています。ですので、ここで語られていることはこういうことです。獣のしるしを受けた者以外、救いや贖いなどに関わる大事な奉仕に関与できない、ということです。したがってこの背教の教会から、真のキリストの救いや贖いを受ける人は皆無となるでしょう。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 13:18

13:18 ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。

その反キリストなる個人の数字は定められています。それは、「666」です。ですので、恐らくですが、名前のアルファベットの数字合計が666となる人が反キリストになる、と思われまます。そんな風に反キリストとは誰か？というヒントがここで与えられているわけです。

# 獣の刻印 エレミヤ

結論として、この黙示録13章も終末の日における、教会の徹底的な背教、荒廃、壊滅を語っているのです。

再度繰り返して語りますが、終末の日の大きなポイントは非常に残念ですが、教会が背教してしまうこと、そうであるがゆえに背教の教会が徹底的に荒廃してしまうことなのです。結果クリスチャンにとって、最も大事な事柄、救いも永遠の命も神との永遠の命の契約も皆奪い去られ、教会は破壊されてしまうのです。すなわち神への祈りの宮としての教会が徹底的に破壊され、一つの石も他の石の上に残らなくなることで、このことがポイントなのです。

そして、その背教を推進させるもの、荒廃させるものは聖書によれば獣であり、具体的には獣の国アメリカであることを知しましょう。以下のようにも書かれています。

**〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 13:6**

**13:6 そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。**

この獣の国アメリカは、いずれ神の御名をののしようになります。いいえ、このことは今アメリカで既に行われつつあります。アメリカでは公共の場で神に祈ったり、聖書のことばを公に表示したりすることが非難されつつあります。たとえば学校の昼食時、神への感謝の祈りをする子どもを教師が咎めたり、叱責したりします。

また、自分の経営する喫茶店にみことばを掲げるクリスチャン店主が非難されたりしています。このアメリカの獣的傾向はいずれ拡大し、全世界に及ぶでしょう。そしていずれ、「**竜を拝む**」と書かれたように、全地は神でなく竜、サタン礼拝を行うようになるでしょう。

**「その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。」**

「**幕屋**」とは、神を宿すものとしてクリスチャンを指す表現です。また、「**天に住む者たち**」とは、

別に天の天使のことを語っているのではなく、「**天的なクリスチャン**」を指す表現です。すなわちその日、獣の国アメリカ主導で正しいクリスチャンを非難する世論やブームが大きく起きてくるようになります。みことばに従うクリスチャンを偏狭な原理主義者だとか、カルトだとか非難する声が世界中で大きく広まるようになります。

今すでにアメリカでは、路傍伝道を行うクリスチャンが逮捕されたりしています。また、聖書に基づき、同性愛や中絶に反対する人々が逮捕されたりしています。彼らはアメリカという国により違法であると判断され、有罪にされているのです。まことにアメリカは獣の国の本領を發揮しています。このような正しいクリスチャンを非難するムーブメントは、さらにさらにアメリカにおいて大きくなっていくでしょう。そしていずれ全世界に広がるでしょう。このような時こそ、「**ここに聖徒の忍耐と信仰がある。**」と書かれた時であり、私たちの信仰が試され、真に主に忠実な者とそうでない者とが区分される日なのです。聖書は終末の日に、「**艱難前に挙げられるから何の忍耐も必要はない**」と語っているのではなく、「**ここに聖徒の忍耐と信仰がある。**」(ヨハネの黙示録13章10節)と艱難時代を通ること、その時における忍耐を語っているのです。惑わされてはいけません。



聖書の殺すなどの教えに従い、中絶反対(pro life)のデモを行い、アメリカの警察に逮捕されたクリスチャン高校生

# 契約を守る E3

今回も礼拝のメッセージで学んだことについて話をしたいと思います。「契約」ということばに関して、とても大事なポイントを語られていたので、よろしければお読みください。以下、エレミヤ牧師によるメッセージです。

〔聖書箇所〕詩篇 105:10,11

105:10 主はヤコブのためにそれをおきてとして立て、イスラエルに対する永遠の契約とされた。

105:11 そのとき主は仰せられた。「わたしはあなたがたの相続地としてあなたに、カナン<sup>1</sup>の地を与える。」

10節の「永遠の契約」ということばについて見てみたいと思います。一般的に「契約」とは、お互いの条件を全うして成り立つものです。たとえば家を借りるといときに、大家さんのほうで条件を出して、私たちがそれをのんで家賃を払うなら、家を貸してもらえます。また、アブラハムは新約のクリスチャンの型でもあります。ゆえに「わたしはあなたがたの相続地としてあなたに、カナン<sup>1</sup>の地を与える。」という祝福が私たちにもあります。ただし、「これを守りなさい！」というものがあります。

そして、11節では「祝福」について書かれています。「相続地」とは、「天の御国の約束」のことです。そして私たちはアブラハムの子孫なので、「契約（天の御国を相続する）」が結ばれていることになっています。しかし「契約」は守ってなんぼのものです。

「契約」に関して、たとえばこういう話を聞いたことがあります。ある人が無理な契約をしまして、一日か二日家賃を滞納したそうです。そうしたところ、管理人さんに鍵を取り替えられてしまい、家の中に入れなくなったそうです。それと同じように、私たちが契約を守らないと、「天の御国」に入れられない可能性があるのです。それではどんな契約を守るべきなのか？について見ていきたいと思います。

〔聖書箇所〕創世記 17:7-11,14

17:7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。

17:8 わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナン<sup>1</sup>の全土を、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」

17:9 ついで、神はアブラハムに仰せられた。「あなたは、あなたの後のあなたの子孫とともに、代々にわたり、わたしの契約を守らなければならない。」

17:10 次のことが、わたしとあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。

17:11 あなたがたは、あなたがたの包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたの間の契約のしるしである。

17:14 包皮の肉を切り捨てられていない無割礼の男、そのような者は、その民から断ち切れなければならない。わたしの契約を破ったのである。」

少しずつ見ていきましょう。

17:7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。

ここでも、「契約」ということばが出てきます。「そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる」とありますように、のちの新約のクリスチャンとも結んでいる、ということを書かれています。

17:8 わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナン<sup>1</sup>の全土を、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」

このことは、天の都、天の約束の地を受ける、という契約について言われています。けれども「契約」は、ギブ&テイクなので、守らないと入るべき所に入れません。

17:9 ついで、神はアブラハムに仰せられた。「あなたは、あなたの後のあなたの子孫とともに、代々にわたり、わたしの契約を守らなければならない。」

ここでも、「契約」を守るということについて、繰り返

# 契約を守る E3

返し語られています。そしてアブラハムだけを見ずに、私たちとも結ばれたということを見ていきたいと思います。

17:10 次のことが、わたしとあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。

「割礼」を受けることにポイントがあります。ちなみに「肉の割礼」というのがあり、それは男性の体の一部を切り取ることでありますが、しかし男女に関係無く、「心の割礼」というものがあります。

17:11 あなたがたは、あなたがたの包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたの間の契約のしるしである。

「割礼」とは、クリスチャンとして、肉を切り取ることです。

17:14 包皮の肉を切り捨てられていない無割礼の男、そのような者は、その民から断ち切られなければならない。わたしの契約を破ったのである。

もし、「心の割礼」を受けないなら、「クリスチャン」として見なされないの、「約束」は「無効」となる、ということが言われています。ゆえに約束の地、すなわち天の御国に入るためには「心の割礼」を受けるか否かがポイントとなります。つまり私たちが唯一守らなければならないのは、「肉を切り取る」ことです。それに関して不完全ではダメです。クリスチャン生活をしていく中で神が強調されているのは、自分の肉が切り取られていくか？ということです。

そうなんです。神が出している条件はたったひとつだけで、「肉」が切り取られているかどうか？ということです。クリスチャンであっても、ある人は割礼がきちんと行われません。しかしそれでは「天の御国」を受け継げない可能性があります。しかし「肉」が明確に切り取られるなら、楽々「天の御国」に入るでしょう。「天の御国」を相続するかどうかのポイント＝「肉」が切り取られるかどうか？ということです。ゆえに「肉」に従ったクリスチャン生活は、「危ない」と言えます。

今回の要点をまとめます。約束の地に入るための契約は、たったひとつだけです。「割礼を守れ！」というのが、神が私たちに要求しているたったひとつの契約です。そしてこれはすべてのクリスチャンに関わることです。しかも男女に関係無く、皆受けるべきものです。また、神が言われている「割礼」とは、「心の割礼」のことです。ゆえにここでの結論は、「心の割礼」を受けるならクリスチャンとして入るべき所に入る、という風に神さまから認められる、ということです。そして「心の割礼」とは、「肉を切り離す」ことです。

また、「肉」はしつこく、なかなか切り取られないということも理解しましょう。それゆえに「心の割礼」はある意味、一生の課題とも言えます。そして唯一神さまが要求しているのが「心の割礼」だけです。けれどもとても大事な事柄で、神さまはこのことに非常にこだわりを持っておられるので、ゆえにこのことを心に留めていきたいと思います。たしかに、なかなか切り取られないのも事実ではありますが、しかしその方向へ向かっていきたいと思います。そしてどんなに霊的なクリスチャンであっても、これは最後まで課題となります。そういう意味合いで、「心の割礼」は、生涯にわたって受け続けていくものなのかも知れません。また、聖霊によって歩んでいくのを妨害するのは、「肉」だということを正しく理解しておくのも大事なことです。

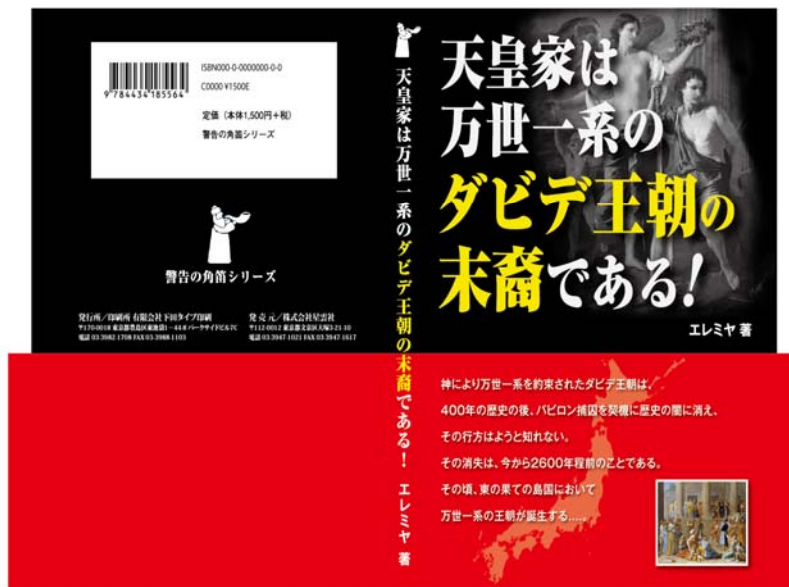
以上のことを語られていたのですが、私個人としては、かなり大事なことなのでは？と思いましたので紹介させていただきました。もし、そうかもしれないなあ、なんて思われましたら、ぜひ実践していきましょう。今回も大切なことを語ってくださった神さまに感謝します。



「肉」が切り取られるなら、キリストに受け入れられ、天の御国を相続する

# お知らせコーナー

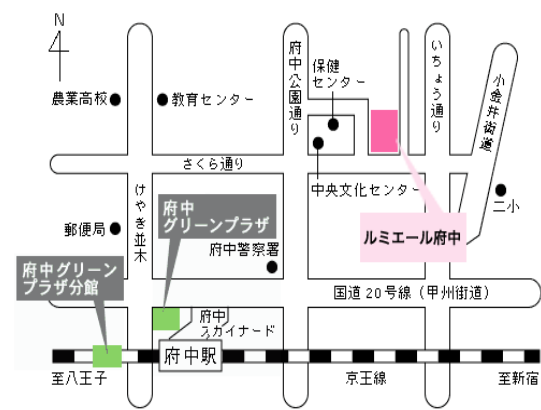
## ●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



● 定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。  
● 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255  
● mail:truth216@nifty.com

## ●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30  
午後 14:00-16:00  
場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館  
(tel:042-360-3311)  
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。  
どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: [http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map\\_02.html](http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html)

★教会のHPもあります。  
ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。  
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋  
<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>  
☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス  
<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>